

研究ノート

ネットニュース NHK 「NEWS WEB」の見出しの機能：主題成分に着目して

Analysis of expressions used in News Headline : focusing on Subject

湯浅千映子*
YUASACHIEKO

The purpose of this research is to clarify the function of the headlines on NHK "NEWS WEB". In this paper, the following two points were analyzed. 1) What kind of structure is the headline of the news 2) Why is the news content transmitted to readers even if the headline summarizes news information in short words? We analyzed focusing on the structure and contents of the topics on news headlines. As a result, we clarified the following: 1) the headlines of NHK news often show the topics by putting a space between the subject and the narrative part; 2) the headlines of the NHK News often make the event itself or the subject matter of the event thematic.

キーワード：主題 (Topic)、ニュース (News)、見出し (Headline)

1 はじめに—問題の所在—

今日、重要な情報源としてネットニュースが発達し、新聞社やテレビなどの既存のメディアが発信する情報もタイムラグなしに、大量に手にすることが可能となった。

筆者が担当する学部留学生の授業でも、最新のネットニュースを授業に取り入れ、読解や討論などの活動で活用している。

ニュースの読み手がネット上に溢れるニュースの中から記事を探し出す、そのよりどころとなるのが、ニュースの「見出し」(「ヘッドライン」)であろう。

見出しとは何か。共同通信社の『記者ハンドブック第12版新聞用字用語集』(2010)によると、「見出しは読者を本文へと引きつけ、いざなう看板、案内標識であるとともに、記事の勘所を前もって知らせ、本文を読みやすくする役目を果たす。簡潔な記事の極致でもある」とある。また、「記事の中の字句をそのまま使い、客観的なポイントだけを、主観を交えずに的確に抽出して伝える『客観見出し』が多用される」とする。

小宮(2012)の「新聞の文体」の「報道記事の文体」

の項では、報道記事の「見出し」について、「ニュースの表題であり、読者に一目で記事の要点を知らせ、読む必要があるかどうかの判断材料を提供する」、「リードや本文から客観的に抽出された句が多用される」、「助詞や動詞の語尾、形容動詞の語尾などが省略された独特の句である」とある。

記事本文冒頭の「リード」部分を中心に、重要な情報だけを集めて作られた見出しを前に、ニュースの読み手は、予測を働かせる。不完全な文である見出しに、適当な語句を補い、文の形にして読むことで、記事が伝える大体の内容を受け取ることとなる。

例えば、NHK「NEWS WEB」の見出しには、次のように、助詞や助動詞を一切含まず、名詞や動作性の名詞のみで情報を圧縮させたものがある。以下、見出しと記事本文の冒頭にあるリード部分を併せて示す。

①「ソチパラリンピック閉幕」

【記事本文】ロシアで初めて開かれたパラリンピック、ソチパラリンピックは16日、閉会式が行われ、10日間の大会を終えました。

*大阪観光大学国際交流学部講師

②「アップル iPhone 5 発表」

【記事本文】アメリカの IT 企業アップルは 12 日、スマートフォン「iPhone」の新型機種を発表し、これまでのモデルと同じように世界的なヒット商品になるかどうか注目されています。

上記①・②の見出しに助詞や活用語尾を補い、単文化させると、「ソチパラリンピックが開幕した」・「アップルが iPhone 5 を発表した」となる。

これらの見出しは、見出しの文頭の主語、そして見出し末の述語に相当する部分が（片仮名と漢字の異なる文字といった）表記の面からも明確に分けられ、見出しから記事内容を予測することも難なくできるだろう。

特に②の場合、主語の「アップル(社)」と目的語の「iPhone 5」の間に置かれた「半角の空白」が両者の境目を示すマーカーとなっている。

NHK「NEWS WEB」の見出しでは、この「半角の空白」が多用される。しかしながら、「半角の空白」の前に位置し、見出しの文頭になれるのは、主語だけとは限らない。

例えば、次の③・④の見出しのみを見て、情報源となる記事本文の内容を予測する際、ニュースの読み手にとって、困難さを感じる場合も少なくないだろう。

③「山手線 約 8 割の駅にホームドア設置」

④「街の問題 スマホ活用して改善」

③の場合、「山手線の約 8 割の駅にホームドアを設置した」と、助詞や動詞の活用語尾を補い、類推を働かせることで、記事本文がある程度推測できる。

一方、④の場合、見出しの文頭の「街の問題」と見出しの後半の「スマホ(を)活用して改善(する)」がどんな関係でつながり、構文化されるのか、見出しの読み取り方法が一つではないため、記事本文を読むまでは、記事内容の予測が容易にできるとは言えない。

そこで、本稿では、NHK「NEWS WEB」の見出しに関する以下の 2 つの問いを掲げ、議論を進める。

- 1) NHK「NEWS WEB」の見出しがどんな構造をもつか
- 2) NHK「NEWS WEB」の見出しが、ニュース情報を圧縮し、短くまとめて表現していても、読者にニュース内容が伝わるのは、なぜか

2 見出しに関する先行研究

(1) 見出しの構造について—佐藤(2008)・寺川(1991)・はんざわ(2018)

佐藤(2008)は、ウェブページで横幅制限のあるボックス内に短く表示される見出しを「ボックス見出し」とし、その見出しの全体的な構造を 6 つに分類した。

「I 1 コト見出し」…一つの事態を伝える。単文に相当。

「II アンカー+1 コト見出し」…「アンカー」(そのニュースが何についてのニュースか、知らせる)があり、その後で新情報の「コト」伝える。

「III 2 コト見出し」…関連する 2 つの事態を伝える見出し。複文に相当。

「IV アンカー+2 コト見出し」…「2 コト」見出しの前に「アンカー」が来る。

「V 1 コト未満見出し」…述語が完全に省略され、キーワードだけから構成される見出し。

「VI その他」…発言の一部を引用するものなど。

一方、寺川(1991)は、見出しの述部の形態的側面に着目し、以下の 7 種に分類している。

「I 主題的な一成分」(「美浜原発事故」)

「II 文から述語部をとったもの」(「約一時間前に予兆」)

「III 文から活用語尾をとったもの」(「放射能値が上昇」)

「IV 述語が言い切り形をとるもの」(「解析中流出起きる」)

「V 述語が続く形をとるもの」(「ショック後ひき」)

「VI 有標の伝達のムードを伴うもの」(「願い届け」)

「VII 装定(連体修飾)」(「広がる協力」)

新聞の全紙面の見出しをこれら 7 タイプに分けた上で、その量的分布について、漢語名詞止めで活用語尾「スル」を省くが、述語性を有する III が最も多く、次いで、述語全体が略され、文として不完全な II が多く、「主題表示」の I のタイプは、3 番目に多いとしている。

新聞投稿文のタイトルを分析したはんざわ(2018)は、そのタイトルが一文から成ると想定した場合、談話レベルの「話題(T)」と「説明(C)」で構成されるタイトルの表現には、「T+C」(「パキスタンのポリオ 悲しい」)・「Tのみ」(「渋滞時に料金割り増しとは」)・「Cのみ」(「上村選手の笑顔から学んだ」)の 3 つのパターンがあり、中でも「T+C」の見出しが全体の 3 分の 2 を占めるという。

(2) 見出しの省略について—高橋(1993)・野口(2002)・水内(2001)

高橋(1993)は、新聞見出しは、「いちどバラした材料を、べつの短句くみだて文法にしたがって再構成した感じである」とし、名詞が多く、また動詞が少ない点、述語になる部分の省略が多く、活用の側面が無視されると指摘する。

水内(2001)も新聞見出しの省略手法について、義務教育が終了した程度の常識に依存し、提示しなくてもわかる助詞や助動詞、述語、常識的な主語も省略できるとし、さらに、読点やカギ括弧、半角、行替えを活用した省略(「自民党、連立を離脱」)、数詞やアルファベットという異文字と接続させ、読点や半角と同じ機能を担う省略の手法(「景況感5期連続で改善」)について言及している。

野口(2002)は、新聞の見出しを、「最も的確・簡潔に要約された記事」そのものであるとし、日本語教育の立場から本文内容の予測に役立つ見出しの省略方法のルールと見出しの解説の際の問題点を指摘し、さらに、見出しの省略方法には以下の2点があるとした。

・「表現の工夫による省略(助詞の省略/名詞止めによる省略/「に・へ・を・も・か」の助詞止めによる省略/略語・略称)」

・「記号による省略(読点や句点、半角の空白や「・」、「?」や「!」、かぎ括弧など)」

これを受け、見出しの解説で生じる問題点として、「助詞、動詞の復元」、「連体修飾語」、「テンス・ムード」、「劇的現在」(現在形で過去の出来事を表す)などを挙げる。

さらに、見出しの読み取りの際、言語的知識に加え、一般常識、社会的・文化的知識といった「非言語的知識」の必要性についても述べている。

森山(2009)は、新聞見出しにおいて、抽象的な格助詞の「が」、「を」が省略される(例「国連事務所にロケット弾命中」「収賄裏付けへ野村証券幹部ら聴取」)、その理由として、「が」、「を」の構造格を消去しても意味関係がなくなることはないからという。また、読点によって主語名詞を表示する(例「米、戦略爆撃機を配備」)、動詞部分がなく、格助詞だけで示す(例「苗場スキー場に15万人 3が日入場者」)見出しについて述べている。

(3) 見出しの「無助詞化」について—黒崎(2007)

黒崎(2007)は、新聞社が配信するネットニュースの見出しで、読点や空白を入れ、意図的に「無助詞」を選択する現象を指摘し、この「無助詞化」とは、その前の語または句の主題化であり、その機能を「話題提示」と称している。その上で、ニュースの見出しの文頭に注目

し、以下の4つに分類している。

「A 個人・団体の名称によって特定の個人または団体が話題となる」(「松坂、MLB屈指の打線と対決」)

「B 出来事や出来事の中心事物が話題となる」(「イービス艦事件、海自幹部ら一斉聴取…流出源の特定急ぐ」)

「C 読者の目をひくための言葉が文頭に来る」(「おきて破り? 44年ぶり村長選」)

「D 全体が文や語句の羅列で話題が明示されない」(「宇宙からマラソン参加し完走」)

このうち、Aの「特定の個人または団体」とBの「出来事や出来事の中心事物」が無助詞によって話題提示がなされ、無助詞の前に来る見出しの話題は、社会的周知度が高く、読み手の知識が一目で活性化されると判断される語彙でなければならないとしている。

また、無助詞によって話題化することで、認識の順番を決め、「読み手にまず話題が何であるかを認識させ、興味を引き付けてから、次にその詳しい内容を提示」という表現効果があるとする。

3 分析対象と分析の方法、本研究の立場

本稿では、2012年4月から2014年12月まで配信されたNHK「NEWSWEB」(<https://www3.nhk.or.jp/news/>)の見出しと記事本文924例を分析対象とする。

分析の方法は、まず、ニュースの見出しの構造について、見出しの文頭を中心に、形式的特徴とその出現傾向を見る。

その上で、野口(2002)・黒崎(2007)の言う、「半角の空白」による無助詞化した見出しに注目したい。

②「アップル iPhone 5発表」のように、見出しの文頭に続き、主語や主題を表す助詞「が」や「は」の位置にその代わりとして「半角の空白」を置き、後半にその主語や主題に対する叙述が続く見出しがある。

「半角の空白」について、野口(2002)が見出しの助詞「が」「は」を省略させるには、「読点で代用する」、「空白(半角分)で代用する」、「主語と述語を直接つなげる」の3つの方法があり、「半角の空白」について、「その位置に助詞や接続助詞が省かれていることを示唆する」としている。

また、はんざわ(2018)は、「話題」部分と「説明」部分から成る見出しの間に入るのは、助詞が約3割であるのに対し、「空白による話題提示」が約4割で最も多

く、「空白による話題提示」は、一般の文章には見られない、新聞投稿文のタイトルの一つの特徴だという。

一方で、表現効果を出すことを狙って見出しに助詞を用いることがある。黒崎 (2007) は、見出し内に「は」を用いることで対比の意を、「が」を用いることで「排他」(驚きや意外性)の意を表すことになり、「対比」や「排他」の意味を出さないために無助詞を選択すると述べている。NHK「NEWSWEB」の見出しで考えてみよう。

- ⑤「高野連加盟校 10%が体罰必要」
- ⑥「“今年の漢字”は『金』」

⑤は、高野連が実施したアンケートで「体罰が必要」と答えた学校が全国の高校の 10%だったという数値が示され、意外で驚いたというニュアンスがある。

⑥の「“今年の漢字”は『金』」の見出しには、見出し上にはない、「今年の漢字と比べて」という意味を想起させる。

このことから、NHK「NEWSWEB」のニュースの見出しの場合、「対比」や「排他」などの意味を有する助詞のない見出しが無標であり、その無助詞の見出しの多くが「半角の空白」によって示されると考えられる。

以上の議論を経て、本稿で明らかにすることは、以下の 2 点である。

- 1) NHK「NEWSWEB」の見出しの文頭を中心とする見出しの構造＝見出しの文頭でどんな形式を用いて話題を提示するか
- 2) NHK「NEWSWEB」の見出しの文頭でどんな記事内容の話題を取り上げてまとめ、提示するか

4 見出しの構造、形式的特徴

まず、NHK「NEWSWEB」の見出し上の語句の連続を「文」としてとらえた場合、見出しがどういった形式的特徴を有するか、見ていく。

NHK「NEWSWEB」の見出し 924 例について、佐藤 (2008)・寺川 (1991)・はんざわ (2018)などを参照し、見出し上の「話題」の要素と「叙述」の要素をつなげ、「文(有題文もしくは無題文)」を生成できるかという観点から、見出しの全体的構造を I～IV に整理した。

以下の表 1 にニュースの見出しの例とともに示す。見出しの例の傍線部分が「半角の空白」である。

表 1 NHK「NEWSWEB」の見出しの全体的構造

I	話題＋叙述 (単文相当)	557 例
a	話題＋叙述 (無助詞) 「ソチオリンピック閉幕」 「フェイスブック利用者 10 億人に」	12 例
b	話題＋叙述 (「が」「は」助詞あり) 50 例 「平成 24 年度予算が成立」 「高野連加盟校 10%が体罰必要」 “今年の漢字”は「金」	50 例
c	話題【半角の空白】叙述 「アップル_iPhone 5 発表」 「日本の 3 社_カナダで太陽光発電所」 「山手線_約 8 割の駅にホームドア設置」 「街の問題_スマホ活用して改善」	473 例
d	叙述【半角の空白】話題 「リニア見学施設オープン_山梨」 「浅田真央 23 年の軌跡展_東京」	22 例
II	話題＋叙述【半角の空白】話題＋叙述 話題＋叙述【半角の空白】叙述 話題【半角の空白】話題＋叙述【半角の空白】 話題＋叙述【半角の空白】(2 文に相当)	172 例
	「水道管破裂し大洪水_女児溺死」 「海外でエビ大量死_輸入冷凍エビの価格高騰」 「ギリシャ連立交渉決裂_再選挙へ」 「韓国_旅客船沈没_死者 100 人超」	
III	叙述のみ (句に相当)	168 例
	「インド版 GPS 衛星打ち上げ」 「1 万 8 0 0 0 棟余り倒壊の危険」	
IV	会話の引用	27 例
	赤崎氏「これ以上の名誉はない」	

このうち、②「アップル_iPhone 5 発表」に代表される、I c の「話題」と「叙述」で構成され、間に「半角の空白」がある見出しが最も多く見られた。全 924 例中、473 例 (51.19%) が I c に該当する。

I d としたのは、「叙述」が先行し、出来事をまず述べた上で、出来事の発生した場所「山梨」が後出となった見出しである。見出し末には、国内の県名が来ることが多く、海外の地名の場合、見出しの文頭で示される。

森山 (2009) は、「楊前主席の視察を発表 香港当

局」といった見出しを例に、「香港当局」という主体を後置させ、背景情報として扱うものと説明する。

Iの次に多く見られたのが、IIの見出しの前半に文相当の内容を有し、「半角の空白」を挟み、後半にも文相当の内容を有し、見出し上で2つの出来事を伝えるものである。一方が「話題」のみ、「叙述」のみ、もしくは、「話題+叙述」であれば、もう一方に「叙述」を含む文相当の内容が来るものも併せてここに分類した。⑦は、水道管が破裂し、大洪水が起きたという事態とそれに起因して生じた「女兒が溺死する」という後続の出来事を見出し上で同時に描いている。

⑦ 「水道管破裂し大洪水_女兒溺死」

【記事本文】南米ブラジルのリオデジャネイロで、太い水道管が突然破裂して大量の水が住宅街に降り注ぎ、3歳の女の子が溺れて死亡するなど大きな被害が出ています。

IIIとしたのは、見出しの文頭に「話題」に相当する内容がなく、「叙述」のみで構成される見出しである。

⑧ 「インド版GPS衛星打ち上げ」

【記事本文】宇宙開発を積極的に進めているインドは、衛星を使って車や船舶などの場所を測定する「インド版GPS」ともいわれる独自のシステムの運用に向けた最初の衛星を日本時間の2日朝早く打ち上げました。

⑨ 「北京で日本語のアナウンス大会」

【記事本文】中国で日本語を学んでいる大学生が、日本語のアナウンスの技術を競い合う大会が北京で開かれ、中国の若者たちがテレビのアナウンサーにふんして日頃の努力の成果を披露しました。

⑧の見出し上では、「インド版GPS衛星」を「打ち上げ」という出来事にフォーカスしており、行為の主体(記事本文にある「インド」)を明らかにしない。⑨は、見出し上に場所(「北京で」と対象(「日本語のアナウンス大会」)のみが示され、助詞や述語に相当する表現については、既存の知識を駆使し、動詞部分(記事本文の「開かれ」)を推測して読み取る必要がある。

IVの「会話の引用」は、見出しの文頭の人物名に続き、その人物の談話を引用し、見出しの「話題」として、カギカッコで示したものをさす。

⑩ 赤崎氏_「これ以上の名誉はない」

⑩の記事本文では、冒頭でノーベル物理学賞を受賞した赤崎勇教授が記者会見を開いたことを伝えたのち、その会見で赤崎教授の出したコメントを紹介している。赤崎教授が「これ以上の名誉はないと思っている」と述べた部分を取り上げ、見出し化したものである。この場合、「赤崎氏」がノーベル物理学賞を受賞したことは報道済みで、人々に周知された出来事として扱っている。

5 見出しの意味的特徴—見出しの空白部分に着目して—

(1) 「半角の空白」の見出しの意味的特徴—全体—

NHK「NEWSWEB」の見出しは、I cの見出しの文頭の「話題」と「叙述」の間に「半角の空白」を置く見出しが最も多く、「叙述」が先行するI dを含めると、見出し全体の半数以上(53.57%)を占める。このことから、見出しの読み取りに際しては、「半角の空白」の記号が何を意味し、その記号の前後にどんな内容が来るのか、知っておく必要がある。

「半角の空白」を含むI cおよびI dのタイプの全495例の見出しの文頭で、どんな内容を話題として取り上げるのか、黒崎(2007)が示した見出しの文頭の4つの特徴に沿って、意味上の分類を行った。

表2 文頭に「半角の空白」のある見出しのパターン

A 特定の個人や団体が話題となる	171例
「米_世界最大の家電ショー開幕」	
「若田さん_ロボットアームで超小型衛星放出」	
「アップル_i P h o n e 5 発表」	
「マック_5 0 0 円超バーガー販売へ」	
B 出来事や出来事の中心事物が話題となる	300例
「三陸沖の地震_M 7 前後の地震ほぼ同時発生」	
「五輪開催_東京の支持率は約7 0 %」	
「太平洋クロマグロ_絶滅危惧種に指定」	
C 読者の目をひくための言葉が文頭にある	24例
「世界初_アンドロメダ銀河の鮮明全体像」	
「街の問題_スマホ活用して改善」	

その結果、NHK「NEWSWEB」の「半角の空白」を含む見出しには、表2にある通り、「A 特定の個人や団体」・「B 出来事や出来事の中心事物」・「C 読者の目をひくための言葉」の3つのタイプが見られた(「D 全体が文や語句の羅列で話題が明示されない」は、「半角の空白」を含まないため、ここでは扱わない)。

黒崎 (2007) では、このうち、A、B が無助詞によって話題を取り上げる例とし、C を話題提示のない見出しとしている。

A から C の意味を有する「半角の空白」の見出しの出現傾向を見たところ、B の出来事や出来事に関わる中心事物を見出しの文頭に立てる例が最も多く、I c、I d に分類される全見出し中、60.6% を占める。次いで、A の特定の個人や団体を話題とする見出し、さらに C の読者の目をひく言葉を見出しの文頭に置く例が続いた。

(2) 「半角の空白」のある見出しの意味的特徴 1

1) A 特定の個人や団体

<ul style="list-style-type: none"> ・地名 「米_世界最大 ゲーム業界の見本市開幕」 「NY_炭酸飲料の大きさ規制へ」 ・個人名 「若田さん_ロボットアームで超小型衛星放出」 「ペレさん_震災復興イベントに参加」 ・会社組織名 「マック_500円超バーガー販売へ」 「アップル_iPhone5発表」

A の「特定の個人や団体」の場合、国や県、市などの自治体、個人、会社組織といった意味の語句が行為の主体を指しており、その主体がどんな行為をしたのか、「叙述」の部分で示される。⑪・⑫は、個人名・会社組織名が見出しの文頭となる例である。

⑪ 「若田さん_ロボットアームで超小型衛星放出」

【記事本文】国際宇宙ステーションに滞在している宇宙飛行士の若田光一さんは、日本時間の19日夜、日本などが開発した3つの超小型衛星の放出作業を行いました。(中略) 今月7日から宇宙ステーションに滞在している若田さんらは、衛星を専用の装置に取り付けて、日本時間の19日午後9時15分すぎに、ロボットアームを使って宇宙空間に放出しました。

⑫ 「マック_500円超バーガー販売へ」

【記事本文】ハンバーガーチェーン最大手の「日本マクドナルド」は、これまでより高めの商品でも買おうという消費者が増えているとみて、500円を超える高価格のハンバーガーを初めて販売することになりました。

⑪は、既に知名度の高い人物として、宇宙飛行士の若田光一さんを「若田さん」と表し、⑫も「日本マクドナルド」の人々の間で慣れ親しんだ愛称「マック」とし

ている。

「地名」が見出しの文頭となる場合、以下の⑬のような、出来事の発生した場所を示す例が大部分である。少数ではあるが、⑭のような「地名」が行為の主体となる例も見られた。⑬の見出しの「米」は、世界最大の家電ショーが行われた場所を示しており、⑭の見出しは、NY が行為の主体となり、「炭酸飲料の容器の大きさを制限する」とある。

⑬ 「米_世界最大の家電ショー開幕」

【記事本文】世界最大の家電ショーが、日本時間の9日朝からアメリカで始まり、現在のハイビジョンの4倍の高画質という「4Kテレビ」など、テレビの最新機種が展覧され、注目を集めています。

⑭ 「NY 炭酸飲料の大きさ規制へ」

【記事本文】アメリカのニューヨーク市は、市民の肥満対策として、レストランや映画館などが販売する炭酸飲料の容器の大きさを制限する新たな条例案を可決しました。

2) B 出来事や出来事の中心事物

<ul style="list-style-type: none"> ・出来事 「三陸沖の地震_M7前後の地震ほぼ同時発生」 「ネット通販_前払い被害が前年6倍に急増」 「五輪開催_東京の支持率は約70%」 「ボストン爆発_3人死亡100人超えが」 ・出来事の中心事物 「太平洋クロマグロ_絶滅危惧種に指定」 「電子黒板_小中学校の6割で十分活用できず」 「上野のパンダ_公開を再開」 「山手線_約8割の駅にホームドア設置」
--

見出しの文頭で、ニュースの出来事やその出来事にまつわる中心事物をまず目にする事で、そのニュースが一体どんなジャンルのニュースなのかを即、認識できる。読みたいと思うニュースに素早くアクセスする、インデックスのような効果も期待できよう。

B に分類される見出しの記事本文のリード部分を見ると、その多くに「～について」を含む節が存在する。「～について」は、「前提となる事柄の中から範囲を限定する」といった意味を有する。ここでの「前提となる事柄」とは、ニュースの第一報を経て、既に人々に周知され、共有された情報と解釈できる。⑮は、出来事（「三陸沖の地震」）、⑯は、出来事の中心事物（「太平洋クロマグロ」）が見出しの文頭に来る例である。

⑮「三陸沖の地震_M7前後の地震ほぼ同時発生」

【記事本文】先月、宮城県で津波が観測された三陸沖の地震について、気象庁が詳しく解析した結果、マグニチュード7前後の2つの地震がほぼ同時に起きていたことが分かりました。

⑯「太平洋クロマグロ_絶滅危惧種に指定」

【記事本文】世界の野生生物の専門家などで作るIUCN＝国際自然保護連合は17日、太平洋クロマグロについて「絶滅する危険性が増大している」として新たに絶滅危惧種に指定し、今後、世界最大のクロマグロの消費国である日本に対して保護の強化を求める国際世論が高まることも予想されま

大谷(1995)によれば、「主語となる要素が、話し手・聞き手間における固有の先行文脈によって共有知識になっており、しかも聞き手の頭の中である程度活性化されている場合、その要素に関する事態を描写して聞き手に提示しようとする」と、『ハもガも使えない文』になる」という。黒崎(2007)は、この大谷の説をひいた上で、無助詞によって見出しの話題となる2つの条件について述べている。

一つは、ニュースの第一報であっても、常識とされる語彙力があれば理解できる場合(例「邦人誘拐 有力情報に賞金120万円」の「邦人誘拐」)、もう一つは、一般の人々に広く知られ、詳細が浸透したニュースであれば、常識とは言えない語彙であっても見出しの話題になれる場合(例「山口さん無事解放＝パラグアイ邦人誘拐事件」の「山口さん」)である。

前掲⑮は、後者の見出しの例であり、「若田さん」イコール「宇宙飛行士の若田光一さん」という情報は、人々の間に広く共有された情報である。前掲⑯の場合も行為の主体を「日本マクドナルド」と表さずとも、「マック」で通用すると考え、見出しの文頭の表現としたのだろう(しかしながら、「マック」と言えば、別会社の製品を想起する人々も少なくない。よって、説明部分の「500円超バーガー」までを読み取り、見出し全体での理解が求められる)。

では、前者のニュースの第一報で、常識として知られた語彙を用いて、見出しの話題とする例はどうか。

⑰「ネット通販_前払い被害が前年6倍に急増」

【記事本文】インターネットの通信販売で、代金を前払いしたのに「商品が届かない」などといったトラブルが、前の年の6倍に急増しているとして、国民生活センターが注意を呼

びかけています。

⑱「五輪開催_東京の支持率は約70%」

【記事本文】2020年夏のオリンピックとパラリンピックの開催についてIOC＝国際オリンピック委員会が行った支持率調査の結果、東京の支持率は70%で、去年5月の調査に比べて23ポイント上がりました。

⑲「ボストン爆発_容疑者2人の映像と写真公開」

【記事本文】アメリカのボストンマラソンの会場で起きた爆破テロ事件について、FBI＝アメリカ連邦捜査局は、日本時間の19日朝早く記者会見し、監視カメラが捉えていた容疑者の男2人の映像と写真を公開し、市民に情報の提供を呼びかけました。

⑰の「ネット通販」の場合、その記事本文では、「インターネットの通信販売で」とある。これを略した「ネット通販」は、辞書に収録され、人々の間に浸透した複合語である。それに対し、⑱・⑲は、辞書に登録されない複合語を見出しの文頭に立て、話題にしている。

⑱「五輪開催」・⑲「ボストン爆発」は、過去に発生した出来事、もしくは、前例があって、既に何度も起きている出来事である。記事本文には、前提となる事柄を話題にする「～について」がある。

いずれも辞書には登録されない複合語ではあるが、その後項に動作性のある⑱「開催」・⑲「爆発」があることから、前項の⑱「五輪」・⑲「ボストン」との関係(⑱「五輪を開催する」・⑲「ボストンで爆発した」)を読み取ることは、さほど難しくない。

さて、この⑱「五輪開催」・⑲「ボストン爆発」は、ニュースの見出しとして文頭に立てる過程で生じた「臨時一語」の例でもある。

「臨時一語」とは、林四郎(1982)が提唱したもので、「臨時にその場限りで作られる一単語」、名詞止めによる名詞句作りから一歩進んだ、「テニヲハを省いた名詞作り」でできた語を指す。さらに林(1982)は、「長い臨時一語を作って名詞的なかたまりを大きくし、それを運用する文法は、なるべく簡単なルールですまそうとする志向が、大量生産的な文章では、多く働くのではあるまいか」としている。

見出しの文頭でそのニュースが取り上げる話題を示し、限られた文字数の中により多くの記事本文の内容を盛り込むという意味においても、臨時一語が見出しの文頭的话题提示に適していると言えよう。

次に「出来事を中心事物」を見出しの話題とする例を見ていく。再掲⑮・⑯・⑰・再掲③がある。

再掲⑩「太平洋クロマグロ_絶滅危惧種に指定」

⑩「電子黒板_小中学校の 6 割で十分活用できず」

【記事本文】パソコンと接続したモニターに動画や画像を表示したり文字を書き込んだりできる「電子黒板」の利用状況を会計検査院が調べたところ、導入された全国の小中学校のうち 6 割に当たる 3700 校余りで、画像を動かすなどの機能が十分に活用できていないことが分かりました。

⑪「上野のパンダ_公開を再開」

【記事本文】妊娠の兆候がみられたため公開が中止されていた東京・上野動物園のメスのジャイアントパンダ「シンシン」について、動物園は妊娠と同じような現象が現れる「偽妊娠」の可能性が高いとみて、およそ 1 か月ぶりに公開を再開しました。

再掲③「山手線_約 8 割の駅にホームドア設置」

【記事本文】駅のホームからの転落事故を防ぐホームドアについて、JR 東日本は、山手線の新たに 5 つの駅で具体的な設置計画を定め、平成 27 年度までに山手線のおよそ 80% の駅にホームドアを設置することを決めました。

「出来事」とは異なり、「出来事を中心物事」は、見出しの文頭のそれを、語句を変えずにそのまま主語に立て、見出しから 1 つの文が作れる。再掲⑩は、「太平洋クロマグロが絶滅危惧種に指定された」と読み、⑩は、「電子黒板が小中学校の 6 割で十分活用できない」と読むことができる。⑪・再掲③は、見出しの文頭が主語にはならないが、助詞や活用語尾を付加し、⑪「上野のパンダの公開を再開する」・③「山手線の約 8 割の駅にホームドア設置する」といった読み取りが可能である。よって、これらは、その「半角の空白」部分に入るべき助詞が省略された見出しであると言えよう。

さらに、見出しの文構造と記事本文の文章構造が一致するパターンと一致しないパターンがある点も特徴的と言える。⑩の場合、記事冒頭のリード部分に「～について」はなく、『電子黒板』の利用状況を会計検査院が調べたところ」とあり、この中から「電子黒板」を見出しの話題に取り上げている。⑪は、記事冒頭の「妊娠の兆候が～」で始まる連体修飾節の部分で、「上野のパンダ」の「公開を再開」する前の時点の「公開が中止」という出来事とその経緯に言及し、その後、事態が動き、「およそ 1 か月半ぶりに公開を再開しました」とし、時系列に沿って新たなニュースを伝えている。

再掲③は、記事本文が取り上げる話題「ホームドア（について）」と、見出し上の文頭の「山手線」が一致

せず、記事本文と見出しの関心事がそれぞれ異なる例である。見出し上では、「ホームドア」でもなく、動作主体の JR 東日本でもなく、ホームドアを設置する対象の「山手線のおよそ 80% の駅」の中から「山手線」の部分に重きがあるとして、見出しの話題に立てている。

3) C 読者の目をひくための言葉

以下は、ニュース記事の主たる内容を示す前に、周知的・補足的な情報を冠のように見出しの文頭に添えて、「読者の目をひくための言葉」とし、読み手を記事本文へと誘導する例である。

⑫「世界初_アンドロメダ銀河の鮮明全体像」

【記事本文】アメリカ・ハワイ島の標高 4200 m の山頂にある日本の「すばる望遠鏡」に、高い性能を持った巨大なデジタルカメラが設置され、「アンドロメダ銀河」の全体像を収める鮮明な写真の撮影に世界で初めて成功しました。

⑬「世界最高齢_116 歳男性死亡」

【記事本文】世界最高齢に認定されている京都府京丹後市の 116 歳、木村次郎右衛門さんが、12 日未明、老衰のため亡くなりました。

⑭「思い浮かべるだけ_家電や車いすを操作」

【記事本文】頭の中で手を動かす動作を思い浮かべるだけで、テレビのチャンネルを変えたり車いすを動かしたりできる技術の開発に、京都府精華町の研究機関などが成功し、未来の家電製品の開発につながると期待されています。

見出しの文頭で⑫の「世界初」、⑬の「世界最高齢」をまず目にすることで、ニュースの読み手は、その出来事に興味や関心を抱くことだろう。⑭は、その記事本文で「撮影に（世界で初めて）成功した」とあるが、見出しでは、「撮影に」・「成功した」の部分が見られない。「世界初」という要素を優先させ、「叙述」の動詞部分を省いて見出し化したものと思われる。

⑭は、見出しの文頭の「思い浮かべるだけ」の部分で読み手の興味を引き付け、表現の目新しさや意外性でニュースの価値を高める効果が期待できる。

（再掲）④「街の問題_スマホ活用して改善」

【記事本文】街なかで、壁の落書きが目立っていたりごみが散らかっていたりするなど、気になる場所を市民にスマートフォンで撮影して投稿してもらい、改善につなげようという実験が千葉市で始まりました。（中略）街なかで、ごみが散らかっているなど衛生上、問題がある場所や、不便を感じる場

所などをスマートフォンで撮影してもらい、独自に開発したアプリを使って市の専用サイトに投稿してもらいます。

再掲④は、見出しをそのまま文に変換すれば、「街の問題があり、その問題をスマホを活用して改善する」となって、目的語が先行する倒置の構造となる。

見出しの文頭の「街の問題」という表現は、記事本文には見られない。記事本文で「気になる場所を」・「衛生上、問題がある場所や不便を感じる場所などを」とあり、これらを指して包括的に「街の問題」と言い充てたものと思われる。この見出しの文頭をBの「出来事」と見ることもできるが、倒置という通常にはない語順でニュースの読み手の注目を集めるといふ点から、Cの「読者の目をひくための言葉」に分類した。

また、「(スマートフォンで)撮影して投稿」の具体的な動作を「活用して」と言い換え、「改善につなげ」というその後の展開も見出しの中に組み込み、「街の問題」・「活用する」・「改善する」と、記事本文の中からもずれも抽象的な表現を選び、見出し化したと言えよう。

(2)「半角の空白」のある見出しの意味的特徴2

最後に、4節でみたⅡの2文に相当する情報が「半角の空白」の前部分と後部分に存在する見出しについて説明する。「半角の空白」の前後は、それぞれ文に換言できる内容として独立しており、時間的に連続する2つの事態を描いた見出しである。

㉔「海外でエビ大量死_輸入冷凍エビの価格高騰」

【記事本文】世界各国に輸出している東南アジア地域のエビの養殖場で、病気が原因の大量死が深刻になっており、この影響で日本向けの冷凍エビの卸売価格が高騰し、国内のスーパーや外食業界などの間で影響が広がっています。

㉕47億円ダイヤ強盗_組織的な犯行か

【記事本文】ベルギーの首都、ブリュッセルの国際空港で、航空機に積み込もうとしていた総額5000万ドル(日本円で47億円相当)の大量のダイヤモンドが、武装したグループによって奪われ、警察では犯罪組織による計画的な犯行とみて調べています。

㉔は、記事本文に「この影響で」とあり、見出しの前半部分で養殖エビが大量に死んだ事態を示した上で、その事態を受けた結果(冷凍エビの価格が高騰)が後半に示されており、時間的に前後する事態が「原因→結果」という関係を成し、見出し内に盛り込まれている。

㉕は、見出しの前半が「47億円ダイヤ強盗」と臨時一語になっている。第一報のニュースであるが、既知の語句を用いて複合語とし、ニュースの一面を端的に表す。後半部分では、そのニュースを受け、続報や別の視点を提示する。㉕の前半で強盗があり、ダイヤが奪われたという主たる事態を伝え、後半部分で、その事態に付随する情報として「警察は犯罪組織による計画的な犯行とみて」と、警察の見解を添えている。

森山(2009)は、見出しの情報構造の問題として、「経団連今井次期会長が記者会見 所得税減税の恒久化には慎重」の見出しを例に、前半の出来事が情報的に焦点なのではなく、背景情報であって、後半の情報(談話の引用部分)が重要な情報であり、報道上の焦点がどこにあるかで表現にちがいができるとした。㉕の見出しの場合、後半部分の警察の談話内容がより比重が大きいものと思われる。

㉖中国のスパコン世界最速に 日本は4位

【記事本文】スーパーコンピューターの計算速度を競う世界ランキングが発表され、中国が開発したスーパーコンピューターが世界一となる一方、日本の「京」は順位を1つ落として4位でした。

㉖は、スーパーコンピュータの世界ランキングについての話題で、見出しの前半で、中国の場合、「世界最速」だとした上で、後半では、翻って日本の場合に言及し、4位だったとしている。

こうした2つの相対するニュースを対比させる、そのマーカーとして、「半角の空白」を活用している。

6 おわりに—結論と本研究の課題—

本稿では、ネットニュースの見出しを分析対象に、その見出しの文頭に着目し、その形式面(見出しの文頭がどんな形式で話題を提示するか)と内容面(見出しの文頭にどんな内容の話題が来るか)、以上の2点について分析した。

その結果、明らかになったのは、以下の通りである。

まず、形式面としては、見出しの文頭の主語に相当する「話題」の部分と「叙述」の部分との間に位置する「半角の空白」が見出しの話題を示すマーカーとしての機能を果たし、「話題」と「叙述」の間に「半角の空白」を置く、1文相当の見出しが全体の半数以上と最も多く見られた。

内容面としては、見出しの文頭で B の「出来事や出来事を中心事物」を表し、これを「話題提示」とするものが、「半角の空白」を含む I c および I d の見出しの中で 6 割以上を占めていた。この「出来事」と「出来事を中心事物」のちがいは、見出し上の語句のみを使い、文として読めるかどうかであり、「出来事を中心事物」の場合、見出し上の語句に助詞や活用語尾を補うことで 1 文を作ることができた。

また、「半角の空白」の前後にそれぞれ文相当の内容があり、2 文相当の内容となる見出しの場合、前半と後半で時間的に継起する 2 つの事態を描いており、両者で原因と結果、主たる情報と付加的な情報といった関係が存在することがわかった。

「半角の空白」を含む見出しの意味を読み解くには、「半角」という見出し特有の記号の意味をはじめ、見出し全体の構造や意味的特徴への理解が求められる。その際、省略された助詞や語句を補うことで、見出しから記事本文の内容の予測がたやすくできる場合もあれば、ニュースの読み手自身が有する既存の常識や想像力を駆使し、見出し上にはない内容を予測することで理解が可能となる場合がある。見出しの内容を予測するにあたっては、見出しの形式や意味のタイプによって、読み取りの難易度に差が生じるものと思われる。

学部留学生は、レポート作成時の情報収集の過程で、新聞やニュースに接する機会に少なからず遭遇する。学部留学生がネットニュースを読むに際し、見出しの構造や機能を理解できていれば、初見のニュースであったとしても、見出しの内容を頼りに、ニュースが伝えようとする主たる情報を受け取ることができるだろう。さらには、学部留学生自身で興味のあるニュースを選択し、ニュースに親しみ、それをきっかけにして、人々の間で周知された知識を増やすことにつなげることもできる。

つまり、学部留学生にとって、ネットニュースによる日本語学習は、見出しの語句の理解を経て、記事本文の読解力を高めるだけではなく、記事本文に書かれた内容を理解する行為そのものが、見出しの予測に必要な「非言語的知識」を広げ、常識を深める機会となりうる。

今後は、見出し内部の語句と記事本文中のそれに対応する語句間のパラフレーズについて、また、記事本文の中でその要点をとらえた「主題文」の認定とその主題文を見出しの語句に採用するか否か、また、政治や経済、国際、スポーツといったニュースの分野・ジャンルによって話題提示の方法にちがいはあるかなど、分析・考察を続けていきたい。

【引用・参考文献】

- 大谷博美 (1995) 「ハとガとφ —ハもガも使えない文—」『日本語類語表現文法 (上) 単文編』くろしお出版 pp.287-295
- 共同通信社 (2010) 『記者ハンドブック 第 12 版新聞用字用語集』一般社団法人共同通信社
- 黒崎佐仁子 (2007) 「話題提示に見られる無助詞文の条件—ニュース見出しを中心として—」『早稲田大学日本語教育学』第 1 号 pp.67-80
- 後藤利枝 (1999) 「論説文の文章構造と見出しの反復」『日本女子大学大学院文学研究科紀要』第 5 号 pp.48-37
- 後藤利枝 (2001) 「論説文における表題の反復表現を含む『段』の機能」『会誌』20 号 日本女子大学文学研究科 pp.9-1
- 小宮千鶴子 (2011) 「新聞の文体」『文章・談話・表現の事典』明治書院
- 佐藤理史 (2008) 「13 文字で何が伝えられるか：ウェブニュースボックス見出しの分析」『言語処理学会第 14 回年次大会発表論文集』
- 高橋太郎 (1993) 「述語によってできた述語形式」『日本語学』12 巻 10 号 pp.18-26
- 寺川みち子 (1991) 「新聞見出しに見る装定と述定」『日本語論究 3：現代日本語の研究』和泉書院 pp.109-128
- 野口崇子 (2002) 「見出しの文法—解説への手引きと諸問題—」『講座日本語教育』38 号早稲田大学日本語研究教育センター pp.94-123
- 林四郎 (1982) 「臨時一語の構造」『国語学』131 国語学会 pp.15-26
- はんざわかんいち (2018) 「即題—新聞投稿—」『題名の愉楽』明治書院 pp.301-326
- 水内純清 (2001) 「新聞の見出しに見る助詞の省略と効用」『東アジア日本語教育・日本文化研究』第 3 号 pp.181-188
- 森山卓郎 (2009) 「新聞見出しの文法・序説」『日中言語研究と日本語教育』第 2 号 pp.13-20
- 湯浅千映子 (2014) 「ネットのニュース記事における見出しの機能」『早稲田日本語研究』第 13 号 pp.13-23
- 湯浅千映子 (2014) 「Yahoo きっず『気になるニュース』の見出しの機能—一般の新聞の見出しとの比較から—」『埼玉大学日本語教育センター紀要』第 8 号 pp.13-23
- 湯浅千映子 (2016) 「NHK 「NEWSWEBEASY」のヘッドラインの機能：NHK 「NEWSWEB」との比較と日本語授業への活用」『埼玉大学日本語教育センター紀要』第 10 号 pp.17-28
- 湯浅千映子 (2017) 「NHK 「NEWSWEB」に見る臨時一語のパラフレーズと日本語授業の実践—NHK 「NEWSWEBEASY」との比較の中で—」『埼玉大学日本語教育センター紀要』第 11 号 pp.51-61

